

東日本大震災における当社の動き

2011年3月11日に発生した東日本大震災では、多くの被災者・犠牲者を出すとともに、甚大な被害がもたらされました。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、お亡くなりになった方々の御冥福をお祈りいたします。

当社は震災後、直ちに災害対策本部を立ち上げ、被災地域に対するさまざまな支援を行ってきました。3月25日には新たに震災復興本部を組成し、震災復旧に取り組むとともに、本格的復興に向けた準備を始めています。このたび当レポートを発行するという節目にあたり、東日本大震災に対するこれまでの当社の動きを、簡単にご紹介します。

当社の震災直後の動き

- 3月11日 午後2時46分地震発生
本社、北日本支社、関東土木支社、関東建築支社
に各々災害対策本部を設置
社員の安否確認(当日完了)
現地情報把握開始
被害状況の調査開始
- 3月12日 緊急支援物資第1陣を発送
現地基地である北日本支社に到着
- 3月13日 緊急支援技術系社員第1陣(16名)を派遣
緊急支援物資第2陣を発送、現地到着
- 3月14日 緊急支援物資第3陣を発送、現地到着
- 3月15日 緊急支援物資第4陣を発送、現地到着
緊急支援技術系社員第2陣(2名)を派遣
- 3月16日 緊急支援物資第5陣が現地到着
現地基地より、岩手、宮城、福島方面へ支援物資発送
- 3月17日 緊急支援物資第6陣が現地到着
札幌管内協力会社様から緊急支援物資到着
現地基地より、岩手、宮城方面へ支援物資発送
- 3月18日 緊急支援物資第7陣が現地到着
現地基地より、宮城方面へ支援物資発送
緊急支援技術系社員第3陣(3名)を派遣

緊急支援物資

震災翌日の3月12日から約20日間、本社および全国支社の各地域から緊急支援物資として食料品や日用品を被災地域に送りました。全国の社員が協力し、必要な物資を調達するなどの支援を行いました。また、4月26日には「共同支援」として、株式会社花正(肉のハナマサ)様と、花正様の韓国取引パートナーであるSAJO社様とHANMI FOOD社様からご協力いただきました飲料水80トン(20ペットボトル×40,000本)を宮城県に提供しました。



本社での緊急支援物資積み込み



花正様等との共同支援品(飲料水)の積み下ろし

技術系社員の派遣

施工物件をはじめとした被災した建物の被害状況の確認や、復旧作業を支援するため、震災翌日の3月13日に16名の技術系社員を派遣しました。その後も必要に応じて技術系社員を派遣し、3月中で総計31名を派遣しています。この派遣により、大津波の被害を受けた沿岸地域のガレキ処理、鉄道をはじめとするインフラの復旧、被災地域支援の拠点となる大手商業施設の復旧や、大型食品冷凍倉庫の機能維持などに貢献しています。

福島第一原発への支援

震災により事故が発生した、福島第一原子力発電所に対しても、事故対応において支援を行っています。対応拠点となっているJビレッジから現地への資材運搬やJビレッジの清掃・ゴミ処理対応については現在も続いており、技術面では約30km遠隔の無人化施工技術の提案など、人的・技術的支援を行っています。

義援金の提供

震災後の3月18日、日本赤十字社に対し義援金を提供しました。これは、全社員の有志によるものに、会社としての義援金を加えたものです。また、社団法人 日本土木工業協会(現 社団法人 日本建設業連合会)を通じた義援金協力も行っています。この義援金が、一刻も早く被災された皆様の手元に届き、生活再建に少しでも役立てていただければと願っています。



日本赤十字社への義援金の提供

● Jビレッジ: 福島県双葉郡楢葉町にある1997年開設のサッカーを中心としたナショナルトレーニングセンター。サッカーのプロや日本代表チームの強化につながる優秀な選手を育成するための活動拠点づくりを目的に整備された。2011年3月15日以降、東日本大震災に伴う福島第一原発事故の収束対応のため、自衛隊および東京電力関係者の前線基地として利用されている。

第三者意見

西松建設は、2009年に不祥事を起こし、現在、信頼回復に向け全社的取組みを推進している会社です。その一方で会社の強みとは何かと問えば、これもトップメッセージで紹介がなされているように、「お客様からの高い信頼」となっています。私自身も今回、社長はじめ役員の皆様から会社の現状を直接にお伺いする機会を得た際、日本の会社が大切にしてきた温かさや思いやりのようなものを今もそこかしこに残している会社だなと感じ入りました。西松建設は背負った汚名を返上することのできる、基礎的な部分で信頼のおける会社なのだろうなと思います。

さて西松建設が初めて公表する西松CSRレポート2011。CSRレポートは、会社の将来に向けての健全性について、読者とのコミュニケーションのきっかけとするツールであると考えています。そのためにCSRレポートに求められることは、先ず会社にとって都合の悪いネガティブ情報を自らしっかり開示すること。P14で紹介されている7+1の活動や、N-Vision2020の策定など未だスタートさせただけですから、今回のレポートではPDCA運用の萌芽の部分までしか読み取ることができません。けれども今後、定量指標を明示し有言実行を強力に推進のうえ、その進捗状況を開示してほしい。そしてすみやかに、他社にとってのお手本となるようなレベルでの開示に高めていってほしい。

西松建設には、先ずはそういった今後に向けての決意表明に期待を寄せたい。そのようなCSRレポート開示を含む息の長い真摯な取組みが、西松建設自らの健全な発展に寄与するものと信じています。

株式会社サステナビリティ会計事務所 代表取締役 福島隆史



第三者意見を受けて

福島様には、「西松CSRレポート2011」を創刊するにあたり、第三者意見をご執筆いただき誠にありがとうございます。建設とその周辺事業に関わる私たちに対して、厳しくもあり、反面温かい思いやりと示唆に富んだ大変貴重なご意見をいただくことができました。

さて今回のレポートは、新生西松づくりの一環としてのCSR経営について、当社の現状と将来に向けた取組みや抱負など、今お示しできる情報を紙面の許す限り掲載することに主眼をおいて作成しましたが、当社におけるCSRとしての活動はまだ始まったばかりです。第三者意見でも述べられているとおり、恐らく今回の内容や開示情報のレベルは、ステークホルダーの皆様にご満足いただけるようなものにはなっていないと推察します。しかし今後、今回のCSRレポート創刊を基点として、当社のCSR活動を毎年レベルアップしていき、事業活動を通じて社会的課題に積極的に取組み、当社の将来にますます期待していただけるような企業を目指して努力していきます。

CSR推進室長 水分 登

本レポートに関するご意見等

当社では、より多くのステークホルダーの皆様へ、当社のCSR活動を知っていただき、率直なご意見を頂戴することで、今後のCSR経営にもとづく企業活動のさらなる発展を目指しています。つきましては、本報告書および当社のCSR活動についてご意見等ございましたら、下記URLにアクセスいただき、アンケート回答とともにお寄せください。

ご意見等のお寄せ先 <http://www.nishimatsu.co.jp/csr/communication/>